

心ふれあう

ちょっといい話

おかやまのちょっといい話

シリーズ 24

※チラシは偶数月の第一日曜日にご覧いただけます。過去のシリーズはアーバンホールのホームページでもご覧いただけます。

ふしぎなおまじない

小学校三年生の娘が机の上で何か書いていました。

「なに書いているの？」と聞くと、

「ふふふっ」と笑って教えてくれませぬ。

書き終わると小さなメモをさらに小さく折りたたんでいります。

「願いが叶うおまじないなの。」

「なんて書いたの？」

「ダメ〜ないしょ〜。パパもする？」と聞かれたので、「する。」と答えました。

「あのね、中にお願いを書いて折るのね。それで、寝る前に開いて枕元に置いておくと次の日に願いが叶うの。」

「ほんと？」

「ほんと、私お芋さんが食べたいな〜って書いたら次の日にママが買ってくれたの。」

子どもらしいかわいいお願いだなと思いましたが、

「す〜い、じゃあパパはね…宝く…」と答えようとするよ、

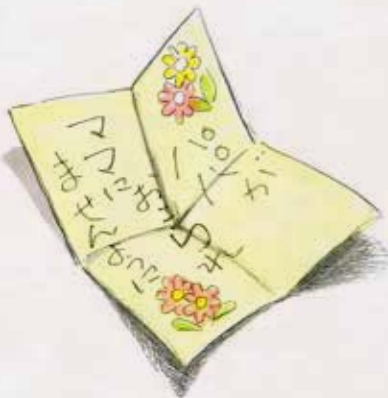
「私が書いてあげるね。」

と言って、書いてしまいました。

なんと書いたのか聞いたら、「ダメよ、見たら、寝るときに見ないと叶わないからね。」

ときつく言われてしまいました。そういわれ、そのまま財布に入れました。

そしてそのままそのおまじないのことは忘れてしまいました。



数日後、娘から「パパ、おまじない効いてよかったね」と言われ、(あ、忘れていた。)と思いましたが、「うん、ありがとう。」と、とっさに答えました。そうは言ったものの、いつかなんと書いたのか見当が付きませんでした。

娘と別れてから、財布の中のおまじないの紙を開けると【パパがママに怒られませんかように】と書いてありました。

(…とっついういことだろう)と思った次の瞬間思い当たる節がありました。最近夫婦間の喧嘩が多くなり、確かに数日前も大喧嘩をしたような気がします。

このころ、お互い気が立っていてイライラしていました。当の本人達はお互いそんなことも忘れていたのですが、私たち以上に娘が気にしているのだと思い知らされました。

日頃、些細なことで子供を叱っていたりする自分が恥ずかしくなりました。子どもを叱る前に自分自身を見直さなければならぬと…。

それと、私がおまじないでお願いしようとした「宝くじが当たりますように」という願いの浅はかさに我ながら考えさせられた一日となりました。

あなたのアーバンホール

アーバンホール

葬儀・法要・ギフト

人間は都合のいいことばかり見がちです。一人一人の真実は違うこともあります。きちんと現実と目を向け、改めるべきことを改め、恥ずかしくない毎を送りたいものですね。

ヘレン・ケラー

盲目であることは、悲しいことです。けれど、目が見えるのに見ようとしないのは、もっと悲しいことです。

皆様の『心ふれあう おかやまのちょっといい話』をお寄せください。ご応募いただいた優秀な作品はアーバンホールのホームページ上・チラシなどにてご紹介させていただきます。ご意見・ご感想もお待ちしています。またご応募いただいた方全員にささやかながら粗品を進呈させていただきます。◆応募先/アーバンホール「ちょっといい話」係 〒710-0841 倉敷市堀南805-1◆記入事項/①住所②氏名③電話番号④年齢⑤エピソードご応募の方は1200文字程度(原稿用紙・ワープロいずれも可)にてお願い致します。尚、作品の返却はありません。